



<三次元反射法音波探査とは>

探査船船尾より受振器(ハイドロフォン)の入った長さ 4,500m-6,000m のストリーマー・ケーブルを 4-6 本繰り出し、船速3~5ノットでこれを水深約 6~8m で曳航します。同時に、同じく船尾より曳航する2式のエアガンより圧縮された空気を交互に海中に放出させ震動を起こします。海底下の地層の境界面から反射して海水面付近に達した波を複数のストリーマー・ケーブルの受振器で観測し記録します。探査船は、観測時には別紙 3 の予定調査域上を約 300m 間隔で北西-南東方向に移動します。